

〈目次〉

1 NAIC「住まいの耐震博覧会」2013 ポートメッセなごや	本部広報	藤井 芳弘
2 防災コラム 第3話	東郷町	加藤 千恵子
4 平成25年ボランティア活動功労者表彰	本部広報	藤井 芳弘
5 第10回一泊研修記念企画	本部広報	藤井 芳弘
6 平成25年度高大連携防災教育推進事業 (高校生防災セミナー)	東郷町	加藤 房江
7 県防災訓練に参加	稲沢支部	川村 壮一郎
8 一宮養護学校防災研修	一宮支部	玉腰 一義
9 静岡県・富士宮市・富士市総合防災訓練に参加して	江南支部	尾関 博
10 掲示板 お知らせ		

## 1 NAIC「住まいの耐震博覧会」2013 ポートメッセなごや

広報部 藤井房広

6月22日(土)23日(日)2日間NAIC「住まいの耐震博覧会」2013 ポートメッセなごやが、開催されました。全国6会場で行われるなかの名古屋会場に愛知防災リーダー会は、22日は会員12名、23日は会員17名にお手伝い頂き参加することができました。



耐震相談ブース

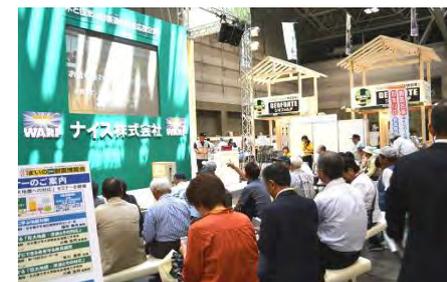
今回の目玉はAPLA耐震化相談会の開設です。耐震化アドバイザーは丸谷さん・伊藤さん・野村さん・水谷さん。

業者さんに頼んで高額な工事代金を請求されたとか、安く上げる方法はないか?補助金は?耐震の方法は?いろんな相談がありました。それに対して一つ一つ丁寧に答えていました。



講演中の早川会長

建物の耐震補強のための金具・すじかいによる耐震補強など模型と写真を使って数多く展示してありとても参考になりました。



熱心に聞き入る聴講者

二日間に渡って「お金をかけずにできる家具固定」講座もセミナー会場で開催されました。講師は早川会



耐震構造の模型



耐震補強のための金具



耐震補強に必須のすじかい

長で、おなじみの聴講生とのやり取りをまじえながら信頼関係を築くことができました。

動員数もさることながらこの地域では、現在、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、いざという時に命を守るため、身近な対策の必要性が高まっています。

その為の家具等の転倒防止器具の取り付けの実演・住んでいる地域で発生が想定されている地震の震度や液状化危険度、建築士による耐震相談・自宅の倒壊危険度がわかる「防災学習システム」の説明など啓発活動を行うことができました。

二日間の耐震博覧会でとても多くの人達と接する事ができ、ここに来場される御客様は地震に対する関心が高いと感じました。

防災に関心・好奇心を持ってもらえるような！  
 ちょっと寄ってみようか！  
 なんか楽しそうだぞ！

このような展示ブースをののを目指して「住まいの耐震博覧会」に参加しました。

お客様にはスキルアップしていただけたものと確信しております。

出展のお手伝いをして頂いた皆様、2日間お疲れ様でした。



APLA 展示ブースを訪れた人々



子供たちに人気の塗り絵コーナー



防災ナマズンと記念撮影

### 3 防災コラム 第3話 赤信号でも渡りますか？ 東郷町 加藤 千恵子

あなたは深夜車を運転中、進行方向の信号が赤でも車が来ていなければ信号を無視して通行しますか、それとも青になるのを待ちますか？

驚くことに信号無視と答えた人が半数以上います。人が見ていなければ、車が来ていなければそうするというのでしょうか。

なぜ?なぜ? 私には全く理解ができません。社会において信号遵守は基本だと思って暮らしてきたので、いくら深夜でも、交通車両がなくても信号は守って欲しい。

深夜自分の目には見えないからと勝手に判断して欲しくありません。まして人が見ていないから大丈夫という考えも「なんでそうなるの?」と思います。

そのほうが合理的という人がいました。自分の目は確かで、車のライトも見えないので大丈夫というのです。相手の車のライトも見えないのに、信号が青に変わるのを待ってられないというのです。

結論を言うと、こんな人とは友達になれません。

防災の活動をしていると、「自分勝手な考え」と「合理的」というのをはき違えている人に遭遇して驚いてしまいます。

そのような人たちは、災害が発生した時にどのような行動を取るのかが分かります。きっと、物資の配給の時にもルールも無視して自己中心的な行動をしでかすはずです。人の行動パターンは変わりませんから。

ボランティア活動やリーダー育成活動をしていて、そのような人たちに会うと、理解も納得もできないままに、何とか事を収めていかなければならない自分の立場が恨めしく思います。心が狭いからではありません。

大げさに言えば、法を守る人も守らない人も同じように扱わなければならない、社会にはなって欲しくないのです。それは平等のはき違えだから。

法をきちんと守る人は、社会の秩序を乱さない人です。

災害に見舞われた時こそ、地域でルールに従い、他を思いやり、智慧を出し、支え合っていく社会でなければなりません。

最近“個性”とか、“ユニークな人”とか言われて、破天荒な人も大事にされていますがこの先 こんなことでこの国は大丈夫なのでしょうか?

社会のルール(決め事)がなぜ必要なのかを今一度考えることが大事だと思います。

今回は信号に例えて書きましたが、賢明な読者ならこれをいろいろな場面に当てはめて自分が取るべき行動がわかるはずです。

#### **4 平成25年度ボランティア活動功労者表彰 広報部 藤井 芳宏**

昨年の防災担当大臣表彰に続き、今年は愛知県の表彰を受けました。

10年以上に渡るボランティア活動に対し表彰されたものです。表彰の対象とされるのは、個人にあっては年12回以上、団体にあっては月1回以上のボランティア活動を行い、顕著な事績を収めたものに対し授与されるものです。



表彰状と表彰を受ける早川会長

出席者は早川会長と藤井広報部長の2名。

表彰式は8月29日（水）午前11時より県庁の本庁舎2階講堂で行われ、今回は受賞者は個人16人、36団体に対し大村知事から表彰状ならびに記念品が授与されました。

《知事からのお言葉》

前半手話を交えながら「受賞おめでとうございます。皆様が前向きに献身的に活動されている姿に心から敬意を表し感謝いたします。地域における住民の結びつき、家族の結びつきが希薄になっている昨今、生活に密着したボランティア活動はとても重要で、欠かすことは出来ません、愛知県では愛知万博から多くのボランティアに

活躍して頂いています。トリエンナーレ2013には1300人のボランティアが会場運営をします。愛知県としても皆様を支援をいたしますので、さらなるご協力をお願いし、皆様のご活躍とご健康を祈念致します」



受賞者記念撮影(知事とともに)

この後にも来賓代表の県議会議長の挨拶がありました。

**5 第10回一泊研修の旅・記念企画**

**広報部 藤井芳宏**

東南海地震を振り返り（稲村の火の館・津波防災センター）

南海トラフの巨大地震への備えを考える三重大学川口先生を囲んでの防災づくしの2日間

**\*1日目 稲村の火の館・濱口梧陵記念館・津波防災教育センター見学と「稲村の火」3Dの映画鑑賞**



稲村の火の館(濱口梧陵記念館・津波防災居行くセンター)



一泊研修の旅 参加者(38名)



梧陵が私財を投じ広村村民と築いた広村堤防(高さ約5m/長さ約

広村堤防の位置と概要

### 濱口梧陵と「稲村の火」口伝 (資料より)

濱口梧陵は広村(現在の和歌山県有田郡広川町)で分家濱口七右衛門の長男として生まれ、12歳のときに本家の養子となり、銚子での家業であるヤマサ醤油の事業を継ぎました。

安政元年(1854年)、梧陵が広村に帰郷していた時、突如大地震が発生し、紀伊半島一帯を大津波が襲いました。

梧陵は、稲むら(ススキという稲束を重ねたもの)に火を放ち、この火を目印に村人を誘導して、安全な場所に避難させました。

しかし、津波により村には大きな爪痕がのこり、この変わり果てた光景を目にした梧陵は、故郷の復興のために身を粉にして働き、被災者用の小屋の建設、農機具・漁業道具の配給をはじめ、各方面において復旧作業にあたりました。また、津波から村を守るべく私財を投じて防波堤の築造に取り組み、このことは防波堤の築造を通して被災し職を失った村人に仕事を与え救済することにもつながりました。

梧陵は、他の分野においても優れた才能を発揮しました。教育面では、江戸時代末期に濱口東江、岩崎明岳とともに私塾を開設し、剣道や学業等の指導にあたりました。この私塾は後に「耐久社」と呼ばれ、変遷を経て現在の耐久中学校になっています。

明治4年(1871)に梧陵は大久保利道の命を受けて駅逓頭に就任したのをはじめ、明治12年に(1879)には和歌山県議会初代議長に選任されました。

明治18年(1885)梧陵の長年の願いであった欧米への視察の途上、ニューヨークにて永眠しました。



濱口家

濱口梧陵の66年の生涯をひもとき、今まで「稲村の火」の紙芝居の範囲でしか知らなかった濱口梧陵の偉大な功績や教訓、人柄を知り改めてすごい人物だった、これは彼の祖父(立派な人物で梧陵幼少の頃から文武両面で勉強をさせて来た、梧陵はそんな祖父を尊敬していた)の影響が大きかった事など多くの事がわかりました。



語り部の話を聞く参加者

### \*2日目 (その1)串本の橋杭岩見学

和歌山県橋杭岩は宝栄地震(1707年)で起こった大津波によって岩石が転がって形成されたと云う調査結果があります。



串本の橋杭岩

### \*2日目 (その2)台風12号被災地視察

平成23年(2011年)9月3日に高知県東部に上陸、岡山県を経て日本海に抜けた台風12号により被災した熊野・那智の滝・那智勝浦町を視察しました。

那智勝浦町では死者27名、行方不明者1名、全壊家屋103棟、半壊家屋905棟床上浸水962棟の甚大な豪雨と土石災害に見舞われました。

住民は避難場所を承知し防災意識が高かったにも関わらず、不意打ちに近い大雨のなか「今すぐ避難することは危険」との判断のもと自宅に留まった人々が多く、災害発生時刻は深夜であったことも多数の被災者・被災家屋を生んだ原因とされます。

また、地区によっては停電が発生、各種の避難情報を収集できなかったことも原因の一つとされています。

また、日本三名瀑の一つである那智の滝も景観が変わるほどの土石流が発生しました。



土石流に囲まれた住宅

ニュースの映像で見たり聞いたりした被災地の印象より、はるかに被害は大きく、現場を視察して初めて被害の甚大さが伝わってきました。

一刻も早い復興をお祈り致します。



土石流で景観が変わった那智の滝

### \*2日目(その3)旧紀伊長島町に唯一残る津波記念碑

昭和19年(1944年)12月7日に紀伊半島南東沖を震源とする東南海地震(昭和東南海地震)が発生、直後に発生した津波による被災を後世に残すため石碑が設けられています。



旧紀伊長島町に残る津波記念碑

#### 《碑文》

顧みるに昭和19年12月7日午後一時過ぎ突如大地震あり十数分後津波襲来し、瞬時にして鉄道線路以南は泥海となり、引き波は忽ちの中にと尊き人命二つを呑み、人家六十有余を奪い、耕地は悉く(ことごとく)河原と化した。時恰も太平洋戦争熾烈を極め、

夜を日に継ぐの敵機の飛襲と物資の缺乏（けつぼう）に人心兢兢（きょうきょう）たる折、この惨害は眞に目を覆わしめるものがあつた。古来より俗説に津波は百年目に毎に来ると。再びこの苦汁を子孫に嘗めさせるに忍びず區民の熱誠は遂に當局を動かし、茲に（ここに）不朽の防潮堤が建設される  
昭和28年8月 三浦區民団

#### \*2 日目(その4)三重県大紀町の避難塔

昭和19年12月7日、東南海地震津波により64名の尊い生命を失つた、あの悲しい出から53年を経た。多くの犠牲を払われた先人達の教訓から、平成7年に、町を挙げての防災対策実行委員会を組織し、国並びに三重県の多大なる助力をいただき町内各所に緊急避難階段が確保された。

特に、この地は奥川が湾曲して取り囲み、往時の人々が逃げ惑う激地であつた。

今は、子供たちの通学路、生活主要道路が走り、又周辺に高台もなく、避難所、地域の集会の場として、多目的に活用されると共に、災害もなく町民の心安らぐ場としての役割果たせばとの願いをこめ、ここに建設する。

平成10年（1998年）建立収容可能人員500名

右の第2錦タワーは地震発生後から数分後に到着するとされる津波に対し、地形的に避難が困難とされる海岸部に近い人口密集地域の住民や隣接する魚市場などで仕事をされている方々の人命救助を図る必要性から建設された。40㎡の耐震性貯水槽が設置されている、非常電源用発電機をはじめ防災資器材の保管備蓄のほか、一階が消防倉庫、2階は地区民の集会室となっている。ここも500名収容。

全ての事を考えて作られていることに感銘いたしました。

ご多忙な川口先生にも同行して頂き、疑問があればすぐ答えて下さり、素晴らしい研修旅行となりました。この旅行を企画して下さいました早川会長、同行して下さいました川口先生に、そして参加して下さいました皆様に感謝です、有り難うございました。



大紀町の避難塔「錦タワー」



大紀町の避難塔「第2 錦タワー」

## 6 平成25年度高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」

NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネット 伊藤 芳枝

夏休みを利用して、今年も「高校生防災セミナー」が開催され、NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネットは、7月25日（木）に災害図上訓練「DIG」を受け持ちました。



大きな地図で地域の特徴を把握



「これよりDIGの開始」

本日の会場は、名古屋大学環境総合館1階です。

この事業の目的は、行政・大学・高校が連携し、毎年15校の高校生を対象に講義・演習を実施して、防災対応力の向上とともに、災害時には、積極的にボランティア活動へ参加しようとする心を育て、学校や地域の防災力向上に貢献できる人材育成を図っていくためです。今年度は、Ⅳ期校となります。各校生徒4名+引率の先生1名の5名、生徒数60名中、2年生が3名、1年生が57名の参加で、平成25年度・26年度と2カ年に渡り、防災学習に取り組み、計画発表、経過報告をする予定です。

さてDIG講座ですが、私は名古屋市中村区の松陰高校（現在、耐震工事中）を担当しました。

発表では、生徒ひとり1個の防災キットが備蓄してある学校があり、他の学校にも検討してほしいと思いました。決意表明を少し紹介します。

- \*家族や友達に学んだことを伝える！
- \*防災意識を持つ生徒を増やすぞ
- \*思いやりの心で助け合おう！
- \*準備するものは、個人で準備しておく
- \*生徒・職員と地域住民との連携を取り、防災意識を高める！

今は、学業優先の高校生ですが、DIGを通じて防災、減災を考え、命の大切さを感じて、仲間を思いやる気持ちが育っていくと嬉しいですね。そして、今後の学校と地域と連携した防災・減災活動につなげられるよう頑張してほしいと、エールを送ります。最後に全員で、「シェイクアウト」をしてDIGは終了しました。



「こうしよう・ああしよう」と共に考えて



成果発表と決意表明

## 7 県の防災訓練に参加

稲沢支部 川村壮一郎

APLA稲沢支部は防災団体として、9月1日の県の防災訓練に参加した。

今年の会場は、稲沢市内の木曾川河畔である。

のぼりをたて、県や一の宮支部から借用の資機材と手持ちの資機材で家具転倒防止の啓発と、尾張なまず会の協力を得て耐震診断の啓発を実施した。

店開きをしても、防災のプロたちは一瞥するだけ。もっぱらお客様は一般市民と小中学生が中心となった。平易な言葉で丁寧に説明することができた。

### 今年の訓練の特徴

- 1 南海トラフ巨大地震を想定
- 2 参加機関数 77 機関
- 3 会場でシェイクアウトを、開始時と閉会直前の2回実施。
- 4 一般市民と小中学生の実働参加（過去は避難訓練程度だった）

- ・チェンソーを使って倒壊家屋の屋根の切断作業
- ・倒壊家屋からの救出訓練
- ・救援物資の荷おろし、手渡し搬送作業
- ・障害者と介助者の、手を取り合っでの避難訓練
- ・飲料水、炊き出しおにぎりの配布作業

（蛇足）前日の設営は猛暑の中で・・・当日の片付けは雨の中で・・・

APLA 諸兄の応援に感謝 終わったあとの爽快感・・・やった者でないと味わえない

## 8 一宮養護学校防災研修

一宮支部研修部長 玉腰一義

一宮支部では、9月3日愛知県立一宮養護学校の防災全校研修に講師として10名が参加しました。対象者は教職員100名。

初めに、伊藤善之 副支部長が「教職員の防災意識の向上について」講話をしました。プロジェクターからの震災（神戸、東北、関東）から南海トラフへの対応について講話、中でも地面が揺れる液状化映像は多数の教職員からアー、オーといった声があがりました。

続いて当校の「災害発生時のマニュアル」に基づき、9班（避難誘導、安全確保、教護、消火、学習計画、学校復旧・スクールバス、搬出・避難所準備）に分かれてワークショップ(WS)を行いました。



担当者も事前準備の上参加（消火班は近くの消防署にてスプリンクラー、消火栓の図面確認）したが、学校防災は初めての経験で不安はあった。

当校は事前に各班リーダー、書記を決定して臨んだ。

WSに慣れている先生方でも防災については初めてでお互いに戸惑いもあった。

災害発生時（児童、生徒が学校滞在中に大規模災害が発生したことを想定）

各班では、活発な意見交換や防災リーダーの助言で非常に有意義な時間であった。

結論については時間が短く、また初めての防災研修で今年度中に今日の意見を集約して改善の防災マニュアル作成の方向で防災リーダー会にも結果報告を受ける事となりました。

当方では来年度も実施してほしいとの要望を出しました。

一部の防災リーダーからの意見は

安全確保班では、車椅子利用者の大半が天井を向いており防災ズキンの作成が必要

先生方のヘルメットもないさみしい現状

幼児、小、中、高と幅広い年齢層。教職員や子供達も遠隔者

保護者への連絡、引渡し・・・通信手段や遠隔地交通手段・・・問題山積

救護班では、負傷者に対する包帯・薬品は通常時でも不足ぎみで災害備蓄用品なし

食料備蓄は、生徒分1日分（通常時の流動食でなく一般と同じで役に立たない）

職員用は一応3日分

スクールバス（弥富、稲沢、犬山・・・）ルート近辺の避難所は確認しているが、登下校時は食料、防災用品はバスに未搭載

消火訓練では、消火器は取り扱うが消火栓でのホースを利用した経験なし

出火防止で電気のブレーカー位置未確認

## 9 静岡県・富士宮市・富士市総合防災訓練に参加して

江南支部 尾関 博

長年親交のある災害ボランティアコーディネーター富士宮の三橋康子副会長から「今年富士宮で静岡県総合防災訓練があるので是非参加してほしい」と連絡が入ったのは今年の

2月のことでした。三橋さんと親交のある犬山・江南のメンバー7名で参加することになりました。

今回の訓練での支援本部は3箇所で開催することのことで、富士宮市総合福祉会館に本部を、富士宮市上条に北部支部・芝川保健福祉センターに芝川支部に分散して参加。

私は北部支部に行き、駆けつけボランティアとして参加しました。実際に受付や当日の体調管理等や活動オリエンテーションをして、活動現場に行き、ボランティア活動をしてきました。

参加団体は静岡県社会福祉協議会・富士宮市社会福祉協議会・富士宮市・富士市ボランティア連絡会・災害ボランティアコーディネーター富士宮・山梨災害ボランティア連絡会・神奈川災害ネットワーク・サーブ静岡・静岡災害救援ネットワーク・静岡県災害時バイクボランティア連絡協議会・山梨防災ネットアマチュア無線。山梨ボランティア協会大阪府立大学ボランティアステーション・あいち防災リーダー会でした。

静岡県総合防災訓練は富士市・富士宮市にまたがり、南海トラフ巨大地震の発生に伴う富士山の噴火を想定しており、訓練参加者は、13万人で、山梨県南部町が県境を越えて参加し、緊急支援物資の搬送などを協働で行った。

富士市では、14箇所の会場で43項目の訓練を実施し、米軍・陸海空の各自衛隊のヘリコプターや護衛艦『むらさめ』の参加があり、富士宮市では、災害ボランティア本部開設運営訓練・静岡県警による家屋倒壊からの救出訓練・山梨県との緊急支援物資の搬送等の訓練が行われたようですが、自分たちが参加し訓練以外の情報が全く入ってこないため、全体の流れについては、何もわからなかった。

参加前日に、富士宮市に向けて台風の接近もあり、江南市の総合防災訓練も中止となったこともあって、静岡県も中止になるのではと心配しながら曇り空のなか出かけていきましたが、蒸し暑い日となりました。

今回、静岡県総合防災訓練災害ボランティア本部開設運営に参加し、これだけの多くの団体の協力が受けられる日頃からのネットワーク作りをされてきたことに、さすが静岡は『すごい』と改めて思った。また、次の機会があれば参加し、総合防災訓練の全体が見学できればいいなと思いました。



## 10 お知らせ・掲示板

- ※ 第3回 本部定期講習会「耐震・家具の固定」-----  
 日時：9月29日 AM10:00~12:00(09:00 開場)  
 会場：甚目寺公民館 3階 視聴覚室  
 (住所 あま市樹木医事二伴田 65番地 TEL052-444-1621)  
 受講料：300円(当日受付にて徴収)  
 受講定員に余裕があります 当日会場の受付可能です
- ※ 第3回 本部役員会 -----  
 日時：9月29日 AM10:00~12:00(09:00 開場)  
 会場：甚目寺公民館 3階 視聴覚室  
 (住所 あま市樹木医事二伴田 65番地 TEL052-444-1621)
- ※ 第6回 あいち防災リーダー養成塾(開講時間は何れもAM10:00~16:45) -----  
 1日目：9月14日(土) 終了 (名大環境総合館 1階のチャホール&減災連携研究センター)  
 2日目：10月12日(土) (名古屋大学講堂 2階)  
 3日目：11月2日(土) (岡崎市福祉会館 6階大ホール)  
 4日目：11月24日(日) (岡崎市福祉会館 6階大ホール)
- ※ 平成25年度 愛知県教育委員会 防災教育指導者研修会支援 -----  
 あいち防災リーダー会は、県教委が小・中・高・特別支援学校の教職員を対象に実施する防災教育研修会を支援いたします。西尾張ブロック傘下の各学校の研修会日程は以下の通りであり、支援はブロック傘下の各支部幹事(ブロック役員)が中心となって支援します(場所は何れも東郷町教育総合センター)  
 10月15日(火)：一宮市・稲沢市  
 10月18日(金)：豊山町・北名古屋市・清須市  
 10月22日(火)：犬山市・江南市・岩倉市・大口町・扶桑町
- ※ 第3回 西尾張ブロック幹事会・研修会 -----  
 日時：11月30日(土) PM01:30~  
 同日午前中ブロック研修会を実施 (予備日 11月9日)  
 場所：尾西生涯学習センター

### 編集後記

台風18号は9月16日朝 豊橋付近に上陸し日本列島を縦断、夕刻には東北沖に走り抜けました。気象庁は滋賀・京都・福井の3県に初めての「特別警報」を発表。激しい雨で京都嵐山沿いを流れる桂川に架かる渡月橋も水に浸かり周辺の観光地は床下・床上浸水の災害を被り、滋賀県では土砂災害が発生、和歌山県では突風(竜巻)被害が、三重県沖の洋上でも竜巻が目撃されるなど、台風18号は日本列島各地に大きな被害を残して去って行きました。

#### 特別警報：気象庁が8月30日0時から運用開始

東日本大震災での大津波警報や2011年の台風12号豪雨災害時の大雨警報が迅速な避難に結びつかなかった反省などから新設  
 気象災害や津波、噴火、地震で、一生に1度程度しか出合わない危険が差し迫った時に気象庁が発表し、安全の確保を強く促すための特別な警報

気象専門家は、今年は例年になく日本列島周辺の海水温が高く、10月半ばまでは大型台風が襲来する可能性が高いとして注意を喚起しております。皆様も油断なく備えられようお願い致します。

(広報 杉浦 事務局 丸山)